

社会科学学習指導案

日 時 平成 20 年 10 月 7 日 (火) 5 校時
 学 級 1 年 1 組(男子 17 名 女子 16 名 計 33 名)
 場 所 1 年 1 組教室
 指導者 佐々木 良一

1 単元名 第 2 編 地域の規模に応じた調査 ※新しい社会 地理 (東京書籍)
第 1 章 身近な地域の調査 2 資料を使って見直そう

2 単元について

(1) 教材について

本単元は中学校学習指導要領の地理的分野、2 内容 (2) 「地域の規模に応じた調査」にかかわる部分である。この単元では第 2 編「地域の規模に応じた調査」において「身近な地域」「都道府県」「世界の国々」と 3 つの規模の調査活動を行い、自力で地域的特色をとらえる調べ方、学び方を身につける事をねらいとしている。

「身近な地域」では身近な地域を調査し、問題解決の過程を理解するとともに、具体的な調査技能を習得する。また、調査活動を通して、日々の生活領域に関する諸事象に関心を持ち、地域社会の中で生活している事実に気づく事を学習目標としている。

(2) 指導について

授業では落ち着いている。課題の提出については大多数の生徒が取り組んでくるが、忘れてくる生徒が固定化してきている。社会的事象に対する関心は高い生徒が多いが、授業で積極的に発言する生徒は少ない。一問一答式の知識理解の力はあるが、資料と資料を結びつけてその関連性を考察したり、その前段階の資料を読み取ったりする力はまだ不十分な面がある。

4 月に行った NRT の結果を見ると地理的分野は 9 % 全国平均を上回っている。そこで小学校で習得した基礎的学習事項を思い出させながら、「地形図」の読図へと生かしていきたい。

単元を通じて、例えば導入の段階では身近な通学路にも「地形図」関する事物があることに気づかせ、地図への関心を高めていくなど、地域に密着した教材を多く取り入れることで生徒の意欲を高めていきたい。

「地形図」を読図するという能力はこの単元では欠かせない力であり、かつ調査活動やまとめる作業においても必要不可欠な能力となる。そのため基本的知識である「地図記号」について復習を行い、また、「地形図における 2 点間の距離」を地形図上で計算する能力もこの単元でしっかり身につけさせたい。

学習の「振り返り」については「達成シート」を活用し、学習内容に対する個々の自己評価を行わせ学習の達成度を把握する手だてとしたい。

「家庭学習」においては演習問題を提示し、授業で学習した内容の定着をはかりたい。また、資料を読み取り自分なりの考えをまとめる課題等も提示していきたい。

3 単元の目標と評価規準

単元の評価規準

社会的事象への関心 意欲・態度	社会的思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象への知識・理解
・地図などから得られる情報から、様々な方法で地域調査に意欲的に取り組むことができる。	・身近な地域の地理的事象をもとにし、その特色を自然環境や他地域との結びつき、人間の営みに着目し、判断することができる。	・地図や統計、写真から地域の変化を読み取る技術を習得している。 ・土地利用図、分布図、棒グラフ、円グラフ、統計などを活用、作成する技能を身につけている。	・縮尺、方位、等高線、地図記号などの地図の約束について、その知識を身につけている。 ・身近な地域における地形、気候、産業、交通、集落などについて、基本的知識を習得している。

4 単元の指導計画と評価規準表

時間	学習内容	評価規準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象への知識・理解
1	・資料を使って見直そう			・「地形図」から「地図記号」を読み取ることができる。 ・「地形図」上から実際の距離を算出できる。	
2	・調査テーマを決めて、見通しを立てよう		・身近な地域の地理的事象をもとにして、適切な課題を設定して、調査の見通しを立てている。	・調査計画書を作成することができる。	
3	・いろいろな方法で調べよう。	・「地形図」で得られた情報を利用し、様々な方法で、地域調査に意欲的に取り組んでいる。			・統計や野外観察、聞き取り調査などから得た情報から、地域の特色をとらえることができる。
1	・調査結果を整理・分析してまとめよう		・身近な地域の特色を、地域の自然環境や他地域との結びつき、人間の営みとのかかわりに着目してとらえている。	・観察や統計などから得た情報を、地域の特色をとらえるための学習に役立つ資料として、地図化したりグラフ化したりして、調査結果をまとめている。	
1	・わかりやすい発表をして学び合おう	・他の班の発表からも身近な地域について学ぼうとしており、地域のこれからの発展について考えようとしている。		・身近な地域の特色を学習し考察した過程やその結果をわかりやすくまとめている。	・身近な地域の特色を、さまざまな視点から習得している。

5 本時

- (1) 目標
- ・「地形図」における基礎的事項を身につける。
 - ・縮尺について理解し、実際の距離を算出することができる。

(2) 具体の評価規準

評価規準	評価場面(方法)	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への支援
【資料活用の技能・表現】「地図記号」を「地形図」から読み取ることができる。	活動の場面 (地図記号のプリント)	「地形図」からプリントにある地図記号以外のもを読み取ることができる。	「地形図」からプリントにある地図記号を読み取ることができる。	机間巡視をし、助言する。
【資料活用の技能・表現】地図上の距離を自力で算出できる。	活動の場面 (学習プリント)	・「地形図」上で自分で選んだ2点間の距離を算出できる。	・教師が提示した2点間の距離を算出できる。	机間巡視をし、助言する。また、生徒同士で確認させる。

(3) 指導の構想

[必然性のある課題設定]

通学路にある「水準点」という身近な事象を導入に取り入れることにより、生徒の興味関心を引き出し、学習課題へとつなげていきたい。

[振り返りについて]

「達成シート」を終結の部分で使うことで本時の学習内容を振り返る手だてとしたい。

[家庭学習について]

「地形図」を使った家庭学習の課題を提示することで本時で学習した内容の定着をはかりたい。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	教師の働きかけ	評価の観点
導 入 5 分	1 写真を見て、その場所がどこか予想する。 2 「地図記号」のプリントに取り組む。	・「水準点」の写真を見せ、身近な通学路に地形図にかかわる物があることに着目させる。 ・時間を与え取り組ませる。その後、答え合わせをする。	
学習課題 「吉里吉里」を通して「地形図」を読もう。			
展 開 35 分	3 「地形図」を見て、どんな情報が入っているか考える。 4 「地形図」おける方位について確認する。 5 「地形図」上に実際ある「地図記号」を調べる。 6 「縮尺」についての説明を聞く。 7 「地形図」における2点間の距離の出し方を理解する。 ・「吉里吉里中」と「吉里吉里小」の距離を予想する。 ・2点間の距離を自分で計算して求めてみる。 8 「吉里吉里中～筋山」と「七戻崎～筋山」の距離はほぼ等距離であるがどちらが「筋山」まで比較的楽に登れるか考える。	・この「地形図」から何がわかりますか。(何があるかわかる・距離がわかる・高さがわかる・陸地と海がわかる) ・「地形図」において上が北であること、また8方位についても確認する。 ・「地形図」から地図記号を探し出す作業をさせる。 ・「大縮尺」「小縮尺」について説明をする。「5万分の1」「2万5千分の1」の地形図を比較し、地図の「縮尺」を比べる場合、分数で表したときに数字の大きい方が「大縮尺」であることを説明する。 ・「吉里吉里中」と「吉里吉里小」の直線距離を予想させる。その後、教師が実際計算をしてみ、距離の出し方を例示する。その時、距離の単位に気をつけるよう説明する。 ・例題に取り組ませ、机間巡視をしながら指導を加える。最初の計算は簡単な数値を教師側が与える。 ・「等高線」の幅が広いほど緩やかであることを気づかせる。	【資料活用の技能・表現】 【Cの生徒への支援】 机間巡視をし、助言する。 【資料活用の技能・表現】 【Cの生徒への支援】 机間巡視をし、助言する。また、生徒同士で確認させる。
終 結 10 分	9 学習のまとめ 10 「達成シート」による自己評価を行う。 11 家庭学習の確認	・本時の学習事項を確認させる。 ・プリントの記入を指示する。 ・地図帳P 150の1を家庭で解いてくるよう指示を出す。	

6 板書計画

地図記号のプリントの解答
(紙板書)

学習課題 「吉里吉里」を通して「地形図」を読もう。

地形図とは…土地の起伏や土地利用、交通路や建物の位置などを表した地図。

地形図からの実際の距離の測りかた

地図上の距離×縮尺の分母＝実際の距離

・練習問題

1 × =

2 × =